

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## (2) 調査の対象とする児童・生徒

小学校調査：小学校第6学年

中学校調査：中学校第3学年

## (3) 調査事項及び手法

## ① 児童生徒に対する調査

## ア 教科に関する調査

小学校調査：国語、算数

中学校調査：国語、数学、英語

- ・ 出題内容は、それぞれ次の(ア)(イ)を一体的に問うもの。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

- ・ 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

## イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

## ② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

## (4) 調査の方式

悉皆調査

## (5) 調査日

令和5年4月18日(火)

## 2 公表の内容

### (1) 市教育委員会

ア 全国・東京都・府中市の教科別の平均正答率及び中央値

イ 分析（主に成果や課題があった設問）及び学力向上を図るための改善策等

ウ 児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査から抜粋した設問と選択肢毎の回答状況

### (2) 学校

ア 全国・東京都・府中市・学校の教科別の平均正答率及び中央値、無解答率、学習指導要領の領域別正答率、成果や課題があった主な設問

イ 分析及び学力向上を図るための取組等

### (3) 個人票の扱い

学校での活用終了後、適宜、児童生徒に配布する。その際、個人面談をするなど、結果に基づく児童生徒の学習の課題解決のための資料とする。

### (4) 学校による調査結果の分析

調査目的を踏まえ、各学校が自らの教育活動の成果と課題を把握し、その改善のために活用を図る。

## 3 調査結果に基づく学力向上に向けた教育委員会の取組について

(1) 小学校、中学校別に分析のための資料を配布し、各校での結果分析、課題把握、改善策の検討等を推進する。

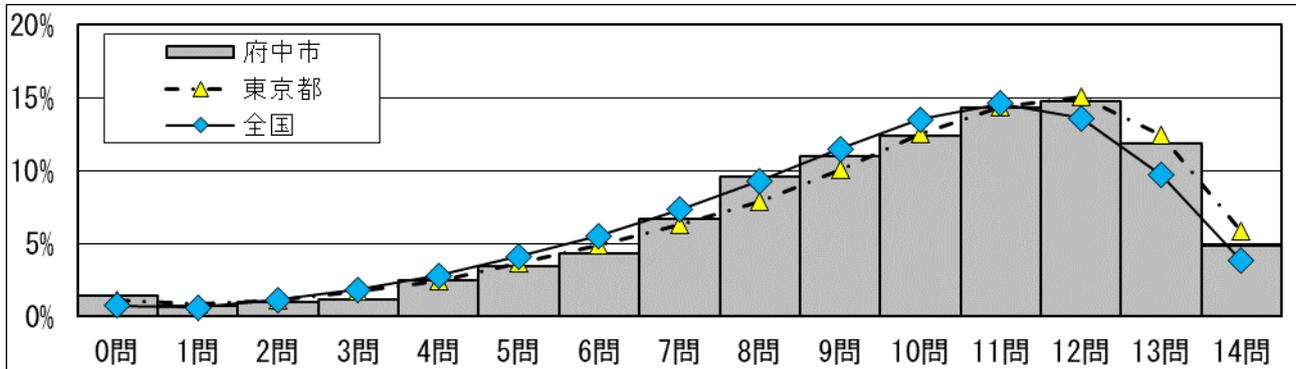
(2) 学力向上プロジェクトチームにおいて、各教科等で目指す資質・能力の育成に向け、府中市の課題に応じた指導方法等に関する資料を作成し、教員の授業改善を図る。また、府中市教育研究会と連携し、各教科等の研修会を充実させ、教員同士が学び合う機運の醸成をし、教員の指導力向上を図る。あわせて、デジタル教科書や AI ドリルを活用した授業や家庭学習での活用について実践事例を発信し、家庭学習でのタブレット端末の活用を促進し、家庭学習の充実を図る。

(3) 効果的な ICT の活用事例を収集し、各校の効果的な実践事例や ICT 支援員の取組事例を、教師用タブレット端末からいつでも閲覧できるようにし、タブレット端末の効果的な活用に向けた授業改善を促す。

(4) 家庭や地域へ、家庭学習の充実に向けた啓発を継続する。啓発資料を作成し学校を通じて保護者会等で配布したり、教育委員会ホームページに掲載したりすることで積極的に周知し、学校と家庭・地域が連携して児童・生徒を育む機運の更なる醸成を図る。

小学校 国語	平均 正答率 (%)	中央値 14問中	学習指導要領の領域別平均正答率(%)			
			知・技	話・聞	書く	読む
府中市	69	10	70.9	72.7	29.1	73.2
東京都	69	10	71.6	73.5	28.9	73.2
全国	67.2	10	68.9	72.6	26.7	71.2

R4 小学校 国語	平均 正答率
府中市	69
東京都	69
全国	65.6



### 【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容				正答率(%)			無解答率(%)		
			知・技	話・聞	書く	読む	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
1 一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	○				67.4	68.2	64.7	4.3	2.8	1.8
1 三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	○				57.1	56.7	52.8	4.9	5.2	4.8
2 四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				○	57.6	56.8	56.2	8.9	10.8	8.5
3 三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	○				58.3	60.2	57.6	16.5	12.4	9.5

### 【教科に関する調査から分かったこと】( )は問題番号

○文の中で既習の漢字を正しく使うこと(問1三(1))、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること(問2四)がよくできている。

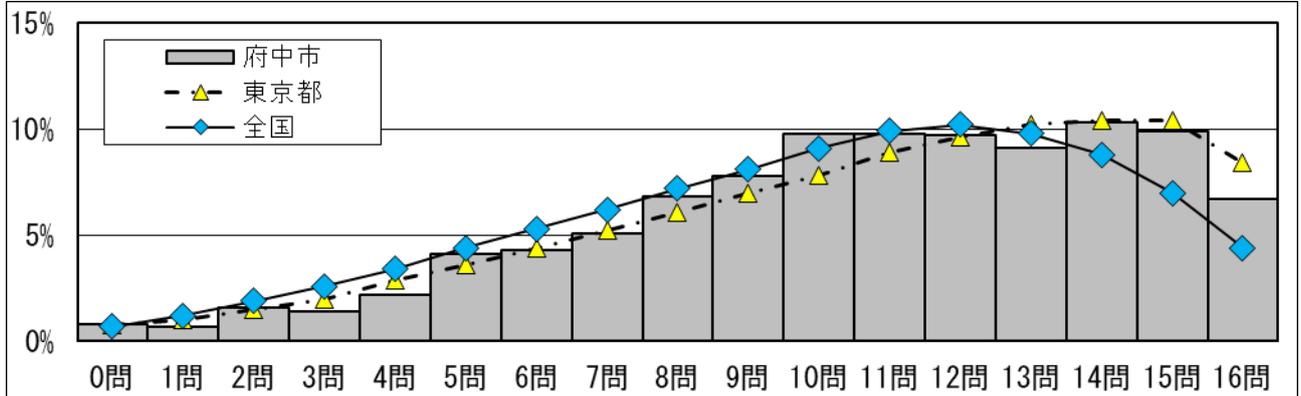
△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること(問1一)、敬語の理解(3三)に課題が見られる。

(質問紙調査から) 読書は好きですか。		市・児童数の割合	市・国語平均正答率
	当てはまる	44.4	73.6
	どちらかといえば当てはまる	29.1	67.1
	どちらかといえば当てはまらない	16.8	66.0
	当てはまらない	9.6	57.1

### 【質問紙調査から分かったこと】

「読書が好き」について、全体の73.5%の児童が肯定的な回答をしており、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向にある。このことは、国語だけでなく算数においても、同様の傾向が見られる。朝読書や読み聞かせなど、日常的に読書に親しむような機会を多く作ることが、学力の向上に結びついていることが分かる。

小学校	平均正答率 (%)	中央値 16問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)					R4 小学校 算数	平均 正答率
			数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用		
府中市	66	11	71.0	51.8		76.1	69.0	府中市	67
東京都	67	11	71.0	54.8		75.8	67.3	東京都	67
全国	62.5	11	67.3	48.2		70.9	65.5	全国	63.2



### 【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					正答率 (%)			無解答率 (%)		
			数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 $50 \times 40$ を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	○					83.3	82.5	80.8	0.7	1.3	1.2
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		○				58.2	65.0	59.8	0.9	0.9	0.7
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		○				26.0	29.5	20.8	3.0	4.6	4.0
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	○				○	80.9	78.6	75.7	3.4	5.0	4.3

### 【教科に関する調査から分かったこと】 ( )は問題番号

○ 一の位が0の二つの2位数についての情報の計算 (問1(4)) や、「以上」の意味を理解し示された表から必要な数を読み取ることがよくできている。(問4(2))

△台形の意味や性質への理解 (問2(1)) や、図形を構成する要素などに着目し、基本的な図形の面積の求め方から面積の大小を判断して、その判断の理由を表現すること (問2(4)) に課題が見られる。

(質問紙調査から) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

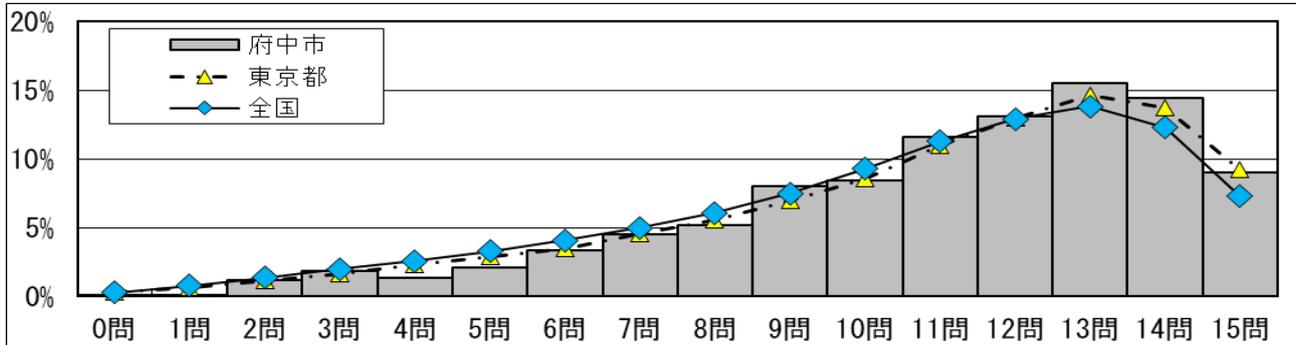
	市・児童数の割合	市・算数平均正答率
当てはまる	30.7	73.4
どちらかといえば当てはまる	44.5	66.6
どちらかといえば当てはまらない	19.7	59.3
当てはまらない	4.7	53.1

### 【質問紙調査から分かったこと】

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について、全体の75.2%の児童が肯定的な回答をしており、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。児童が学習を振り返って自身の理解の状況を把握し、学習改善につなげることができる資質・能力を育むように指導していくことが重要であることが分かる。

中学校 国語	平均 正答率 (%)	中央値 15問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)			
			知・技	話・聞	書く	読む
府中市	73	12	70.5	85.6	69.5	70.4
東京都	72	12	70.1	84.4	66.8	67.2
全国	69.8	11	69.4	82.2	63.2	63.7

R4 中学校 国語	平均 正答率
府中市	72
東京都	70
全国	69.0



### 【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率 (%)			無解答率 (%)		
			知・技	話・聞	書く	読む	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
1 二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	○				64.6	66.0	65.1	0.1	0.2	0.2
2 四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	○			○	74.1	69.7	67.5	1.9	3.5	3.9
3 四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				○	77.7	74.7	72.1	7.8	9.5	10.2
4 一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	○				69.6	74.4	82.5	3.4	4.1	3.6

### 【教科に関する調査から分かったこと】 ( )は問題番号

○文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること (問2四) や、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと (問3四) が、よくできている。

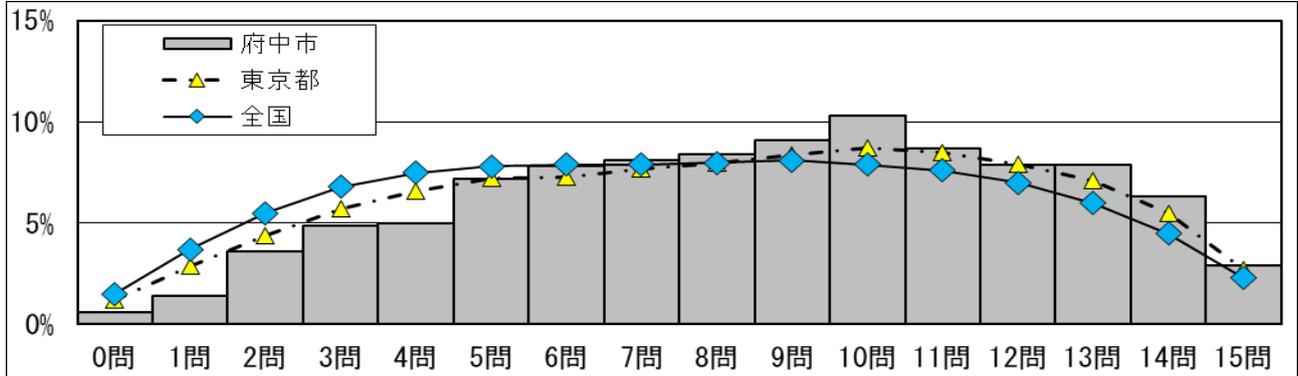
△意見と根拠など情報と情報との関係について理解していること (問1二) や歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと (問4一) に課題が見られる。

(質問紙調査から) 読書は好きですか		市・生徒数の割合	市・国語 平均正答率
	当てはまる		36.1
どちらかといえば当てはまる		30.3	73.9
どちらかといえば当てはまらない		19.9	66.9
当てはまらない		12.2	61.5

### 【質問紙調査から分かったこと】

「読書が好き」について、66.4%の生徒が肯定的な回答をしており、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。これは、数学や英語においても、同様の傾向が見られる。朝読書や図書館の貸し出しの促進など、日常的に読書に親しむような機会を多く作ることが、学力の向上に資すると考えられる。

中学校 数学	平均 正答率 (%)	中央値	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)				R4 中学校 数学	平均 正答率
		15問中	数と式	図形	関数	資料の活用		
府中市	57	9	68.7	41.9	56.6	54.3	府中市	58
東京都	54	8	66.0	39.2	54.3	50.4	東京都	54
全国	51	8	63.0	33.2	51.2	48.5	全国	51.4



【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率 (%)			無解答率 (%)		
			数と式	図形	関数	データの活用	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	○				88.8	85.3	80.5	1.5	2.9	4.0
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				○	46.2	46.5	46.1	7.7	10.5	11.0
6(2)	はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	○				66.8	63.2	58.8	5.3	8.7	10.6
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				○	78.3	68.2	65.7	2.1	5.1	5.6

【教科に関する調査から分かったこと】( )は問題番号

○ 数と整式の情報の計算(問2)や、式の変形やその意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明すること(問6(2))、四分位範囲の意味の理解(問7(1))がよくできている。

△累積度数の意味の理解(問5)に課題が見られた。

(質問紙調査から)学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

	市・生徒数の割合	市・数学平均正答率
当てはまる	21.3	66.2
どちらかといえば当てはまる	48.9	59.2
どちらかといえば当てはまらない	23.7	49.8
当てはまらない	5.6	42.4

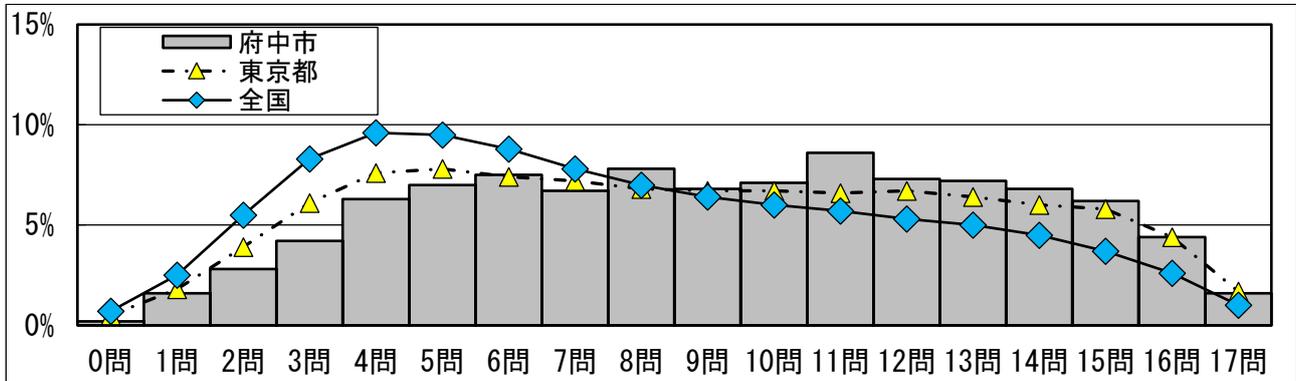
【質問紙調査から分かったこと】

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について、全体の70.2%の生徒が肯定的な回答をしており、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。生徒が学習を振り返って自身の理解の状況を把握し、学習改善につなげることができる資質・能力を育むように指導していくことが重要であることが分かる。

中学校	平均 正答率 (%)	中央値 17問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)				
			聞く	読む	書く	話す [やり取り]	話す [発表]
府中市	55	9	65.9	61.4	32.6	20.2	6.9
東京都	52	9	64.7	57.2	29.6		
全国	45.6	7	58.4	51.2	23.4	14.5	4.2

令和4年度は  
実施なし

※平均正答率・中央値・問体系識別平均正答率に「話すこと」の結果は含まない。



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					正答率 (%)			無解答率 (%)		
			聞く	読む	話す [やり取り]	話す [発表]	書く	府中 市	東京 都	全国	府中 市	東京 都	全国
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○					69.3	70.4	61.1	0.2	0.2	0.2
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				79.4	70.2	64.5	0.3	0.3	0.3
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					○	54.6	48.5	40.4	3.7	5.7	6.6
話す こと 2	環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる					○	6.9		4.2	10.0		18.8

【教科に関する調査から分かったこと】 ( )は問題番号

- 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むこと (問5 (2))、未来表現の肯定文を正確に書くことができること (問9 (1) ①) がよくできている。
- △ 目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができること (問2)、聞いたことについて自分の考えとその理由を話すことができること (話すこと問2) に課題が見られる。

(質問紙調査から) これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか	市・生徒数の割合	市・英語平均正答率	
	当てはまる	13.9	65.7
	どちらかといえば当てはまる	20.4	59.1
	どちらかといえば当てはまらない	26.0	53.6
	当てはまらない	38.7	49.2

【質問紙調査から分かったこと】

「これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」について、全体の34.3%の生徒が肯定的な回答をしており、肯定的な回答をした生徒ほど、平均正答率が高くなる傾向が見られる。一方で、64.7%の生徒は、否定的な回答をしており、学校外で生徒が英語を使う機会を創出することで学力向上につながる事が分かる。

# 1 学校質問紙から 学習指導の改善の取組状況

## 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

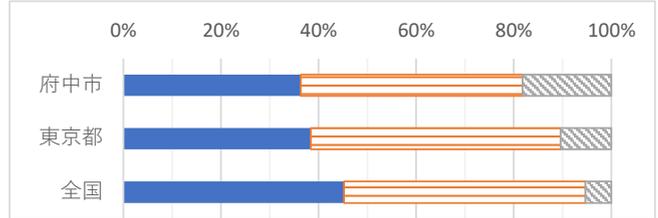
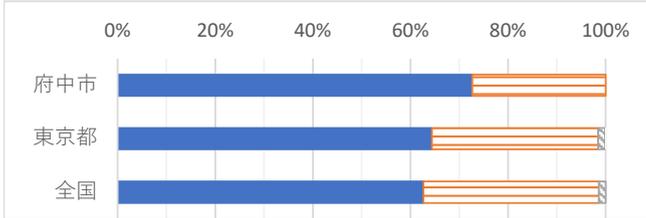
設問項目 小学校 (17) 中学校 (17)

[カリキュラムマネジメント, 学校運営の視点]

小学校	選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市		72.7	27.3	0.0	0.0	0.0
東京都		64.3	34.0	1.4	0.1	0.0
全国		62.6	35.9	1.4	0.0	0.0

中学校	選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市		36.4	45.5	18.2	0.0	0.0
東京都		38.4	51.2	10.4	0.0	0.0
全国		45.2	49.5	5.3	0.0	0.0

1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



・授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていることについて、「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合は、小学校では都や全国と比べて多く、中学校では、都や全国と比べて少なくなっている。

## 調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

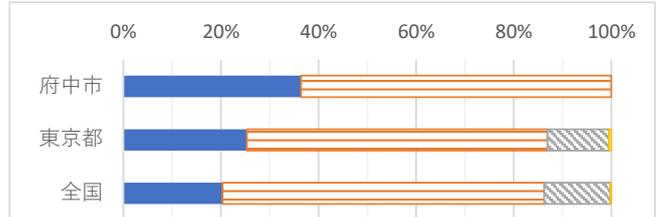
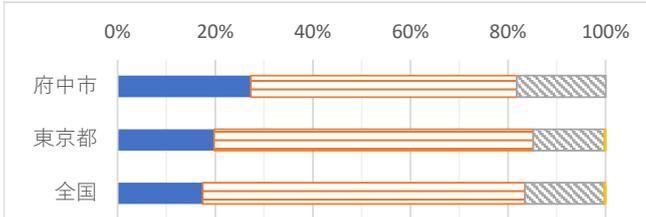
設問項目 小学校 (29) 中学校 (29)

[授業改善の視点]

小学校	選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市		27.3	54.5	18.2	0.0	0.0
東京都		19.8	65.3	14.6	0.2	0.0
全国		17.4	66.0	16.3	0.2	0.0

中学校	選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市		36.4	63.6	0.0	0.0	0.0
東京都		25.3	61.5	12.6	0.5	0.0
全国		20.3	65.9	13.5	0.2	0.0

1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



・児童・生徒が、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたかという質問に「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、小学校は都や全国より低く、中学校は都や全国より高くなっている。

## 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

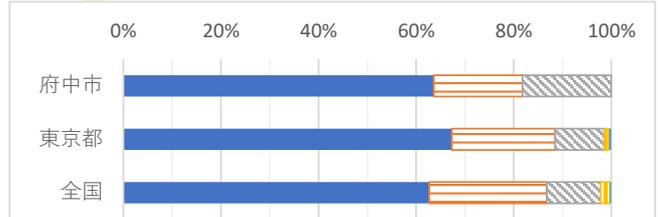
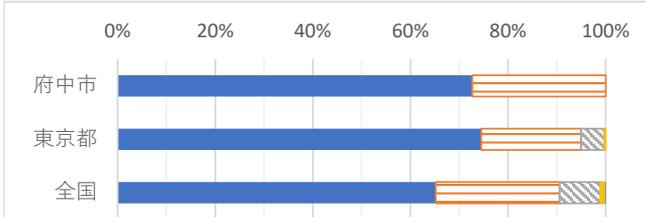
設問項目 小学校 (55) 中学校 (63)

[ICTを活用した授業]

小学校	選択肢	1	2	3	4	5	他・無回答
府中市		72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0
東京都		74.5	20.5	4.8	0.2	0.0	0.0
全国		65.2	25.4	8.4	0.9	0.1	0.0

中学校	選択肢	1	2	3	4	5	他・無回答
府中市		63.6	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0
東京都		67.3	21.2	10.1	0.9	0.5	0.0
全国		62.6	24.1	11.0	1.9	0.3	0.0

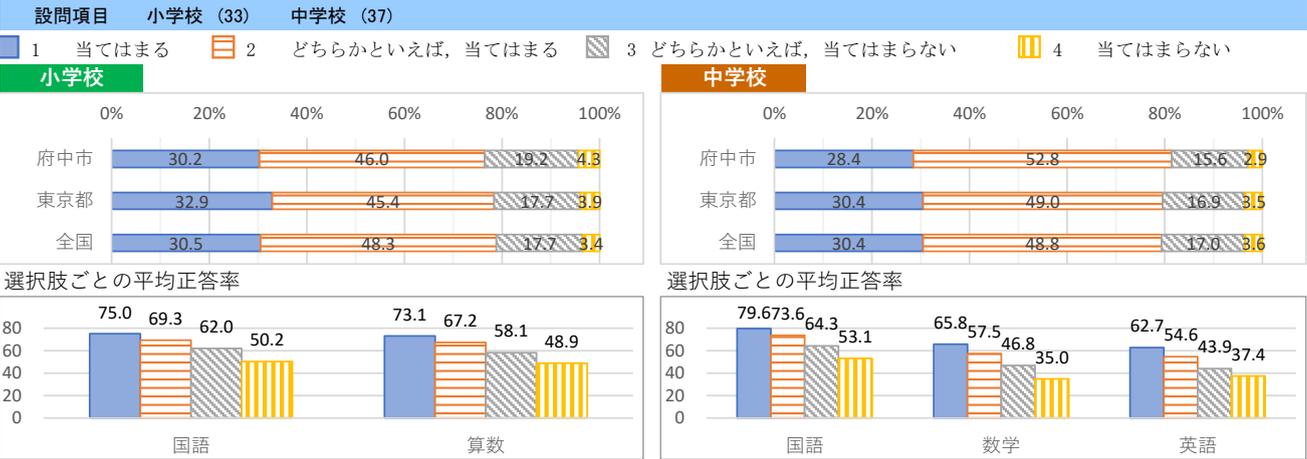
1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上 4 月1回以上 5 月1回未満



・学習用タブレットを授業でどの程度活用したかという質問に対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した府中市立学校の割合は、小学校は都や全国より高く、中学校は都や全国より低くなっている。

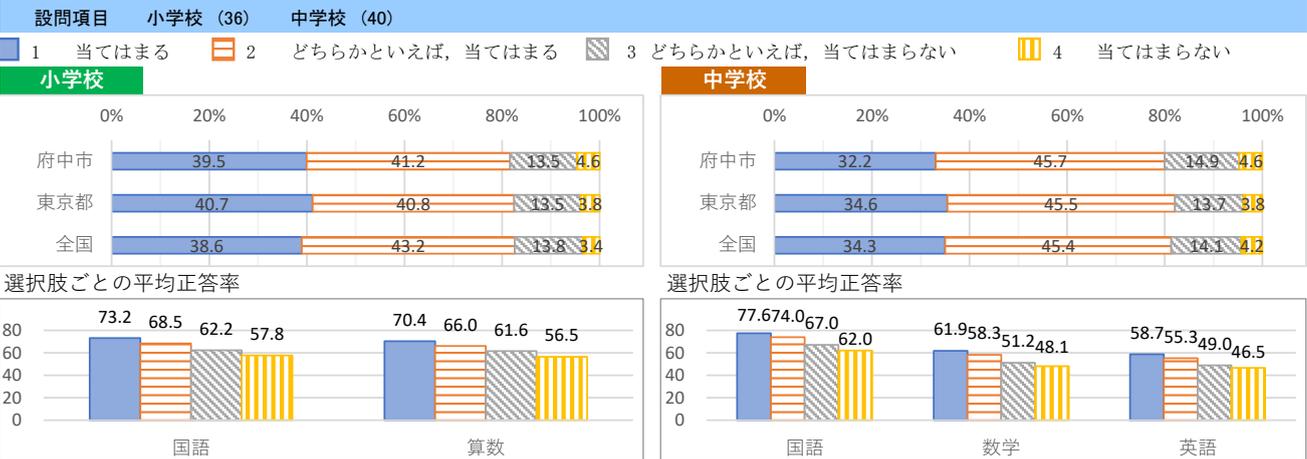
## 2 児童・生徒質問紙から (1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況

5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか



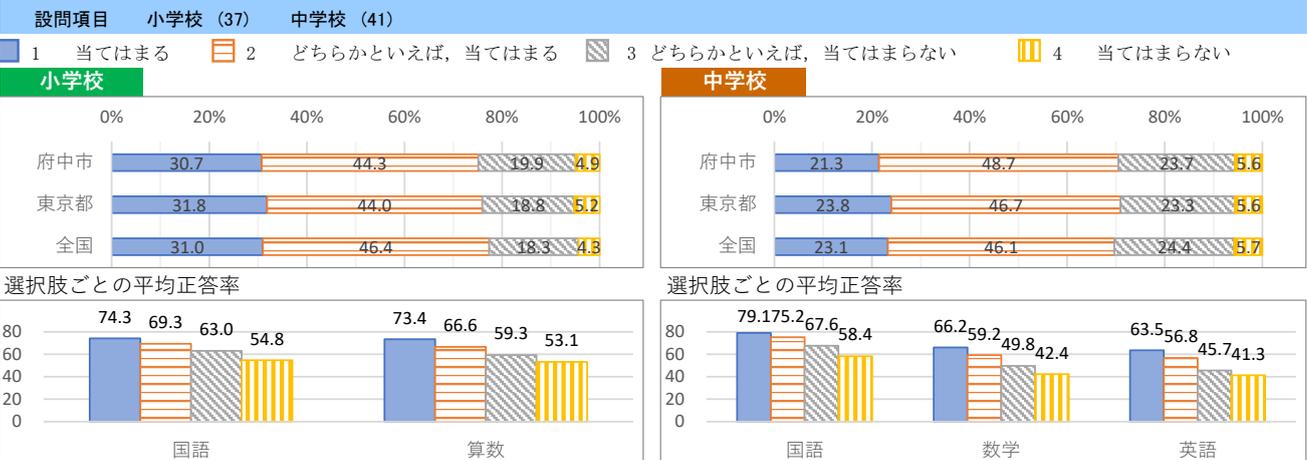
・授業で、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいたかということに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では都・全国より低く、中学校では都・全国より高くなっており、課題の解決に向けて、自ら考え、取り組んでいる児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



・児童・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかということに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも都・全国より低く、対話を通じて考えを深めたり、広げたりすることができている児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



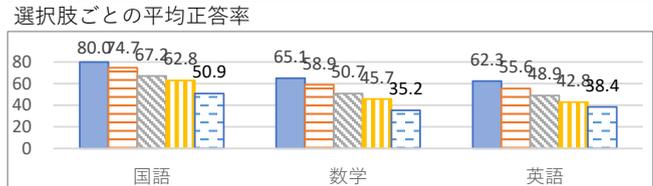
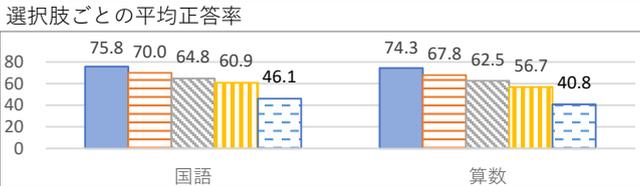
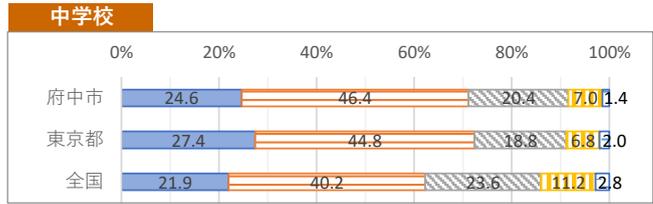
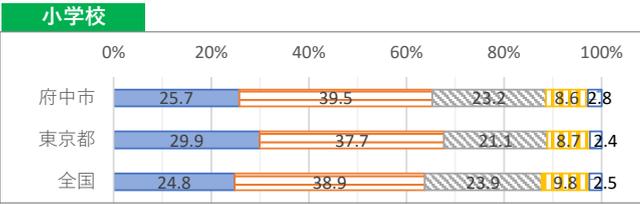
・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているかということに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校は都・全国より低く、中学校では都より低く全国と同様の傾向であり、学習の調整ができている児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

## 2 児童・生徒質問紙から (2)思考力・判断力・表現力の育成

5年生までに(1, 2年生のとき)受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

設問項目 小学校 (32) 中学校 (36)

1 発表していた 2 どちらかといえば、発表していた 3 どちらかといえば、発表していなかった  
 4 発表していなかった 5 考えを発表する機会はなかった

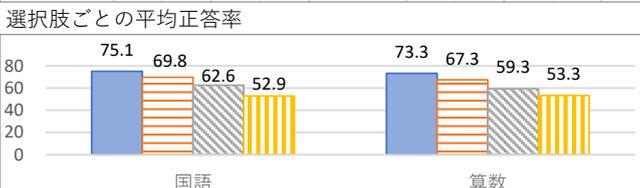
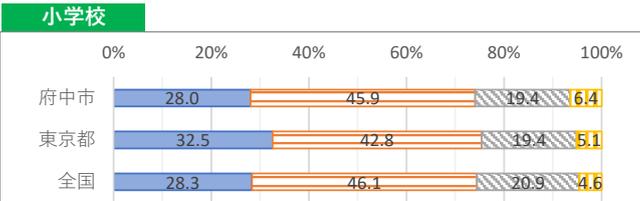


・自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたかという質問に、「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国より高く、都より低い。自分の考えが相手にうまく伝わるように工夫しようとする児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

設問項目 小学校 (34) 中学校 (38)

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

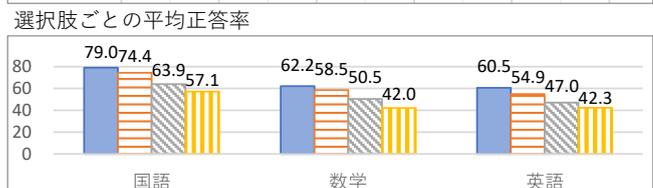
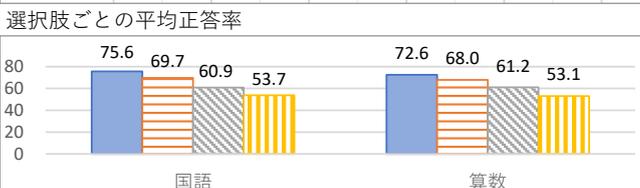
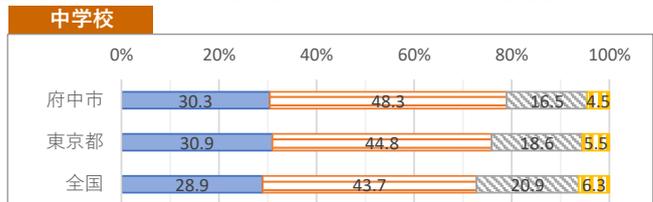
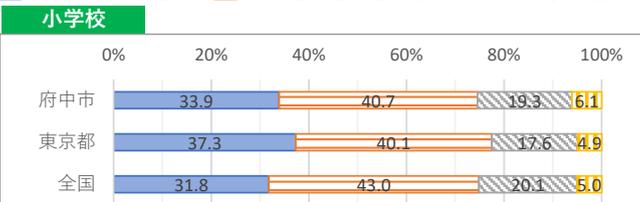


・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたかということに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも都や全国と同様の傾向であり、各教科などの学びを生かしながら学習ができている児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

設問項目 小学校 (39) 中学校 (43)

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・発表といった探究的な学習に取り組んでいるかということに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校で都より低く全国と同様の傾向、中学校では都・全国より高い。探究的な学習に取り組む児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

## 2 児童・生徒質問紙から (3)生活習慣等

### 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

設問項目 小学校 (2) 中学校 (2)

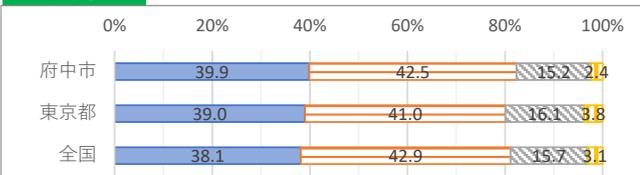
1 している

2 どちらかといえば、している

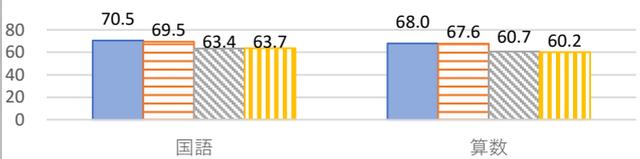
3 あまりしていない

4 全くしていない

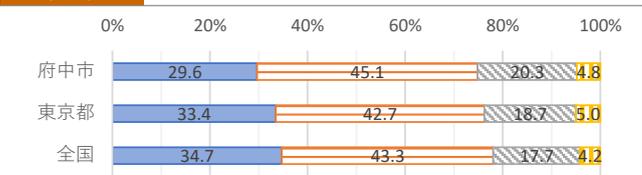
#### 小学校



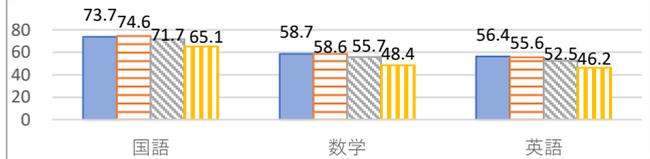
選択肢ごとの平均正答率



#### 中学校



選択肢ごとの平均正答率



・毎日同じくらいの時刻に寝ているかについては、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では82.4%、中学校では74.7%となっている。小学校と比べ中学校では肯定的な回答が下がるのは、都や全国と同様の傾向である。

### 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

設問項目 小学校 (15) 中学校 (15)

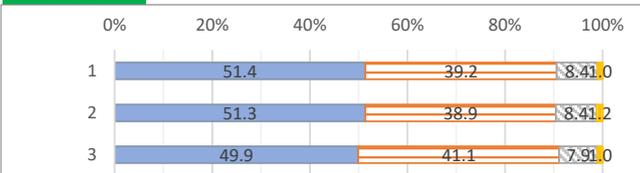
1 よくある

2 ときどきある

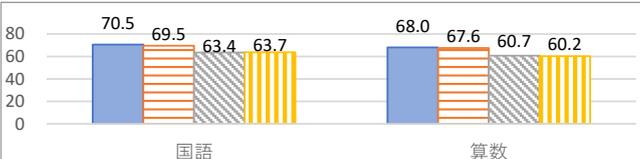
3 あまりない

4 まったくない

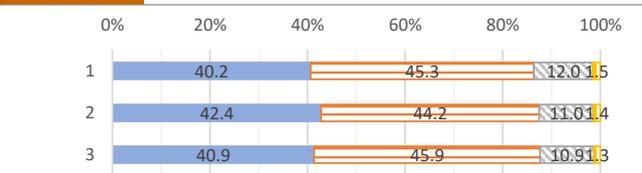
#### 小学校



選択肢ごとの平均正答率



#### 中学校



選択肢ごとの平均正答率



・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがどのくらいあるかについて、「よくある」「ときどきある」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では90.6%、中学校では85.5%である。小学校と比べ中学校では肯定的な回答が下がるのは、都や全国と同様の傾向である。

### 読書は好きですか

設問項目 小学校 (24) 中学校 (24)

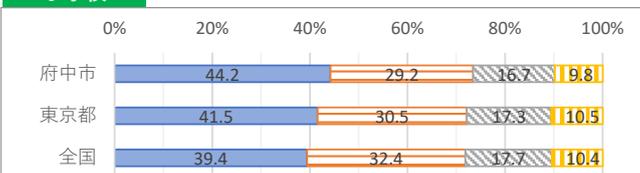
1 当てはまる

2 どちらかといえば、当てはまる

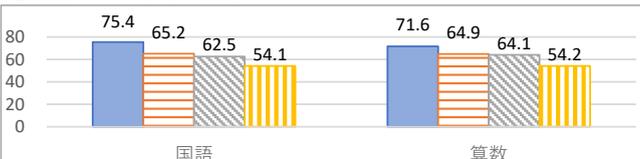
3 どちらかといえば、当てはまらない

4 当てはまらない

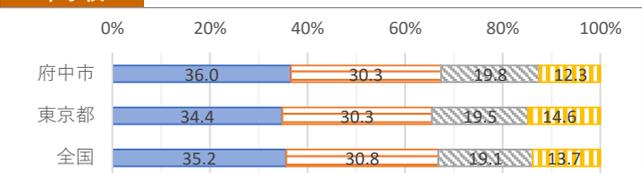
#### 小学校



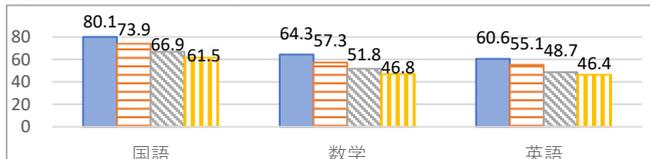
選択肢ごとの平均正答率



#### 中学校



選択肢ごとの平均正答率



・読書が好きということに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では、都や全国よりも高く、中学校では都より高く、全国と同様の傾向である。読書が好きと回答している児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。

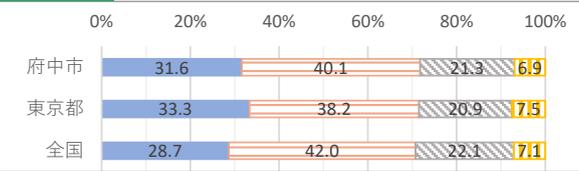
## 2 児童・生徒質問紙から (4)家庭学習

### 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

設問項目 小学校 (16) 中学校 (16)

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

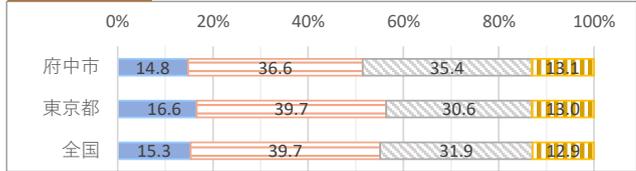
#### 小学校



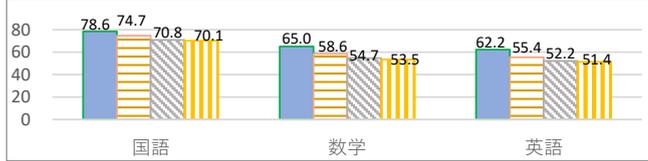
選択肢ごとの平均正答率



#### 中学校



選択肢ごとの平均正答率



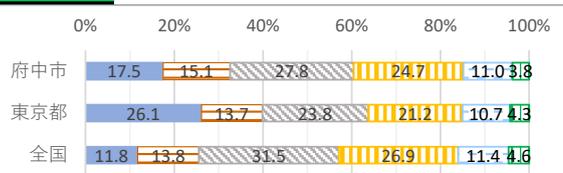
・家で自分で計画を立てて勉強しているかについて「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では都・全国と同様の傾向であり、中学校では都・全国より低い。家で自分で計画を立てて勉強している児童・生徒の、平均正答率は高い傾向にある。

### 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

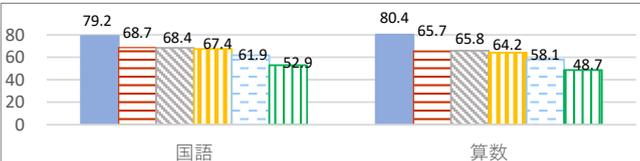
設問項目 小学校 (17) 中学校 (17)

1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない  
5 30分より少ない 6 全くしない

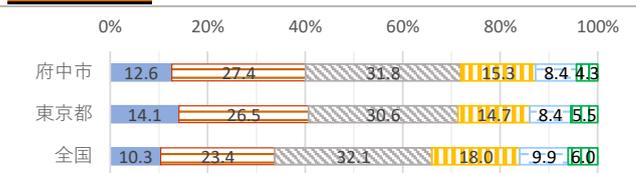
#### 小学校



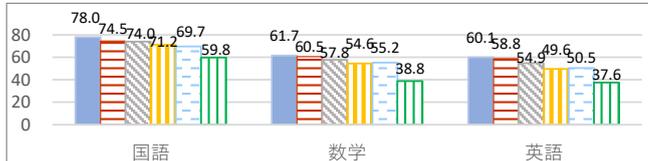
選択肢ごとの平均正答率



#### 中学校



選択肢ごとの平均正答率



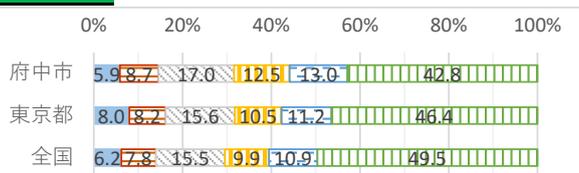
・平日の学校の授業時間以外の勉強時間について、全くしないと回答している児童・生徒の割合は、都・全国より少ない状況となっている。学校の授業時間以外に勉強をしている児童・生徒の平均正答率は、全くしない児童・生徒と比べると高くなっている。

### 家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を読み取り英語を話す練習をしたりしていますか

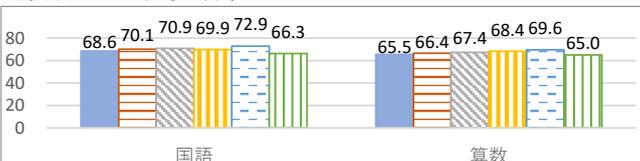
設問項目 小学校 (59) 中学校 (65)

1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上 4 月1回以上  
5 月1回未満 6 行っていない

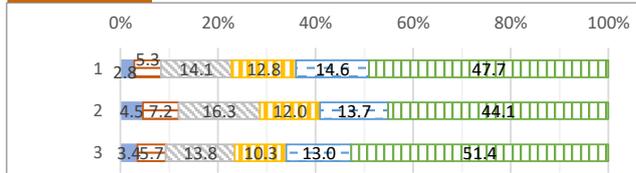
#### 小学校



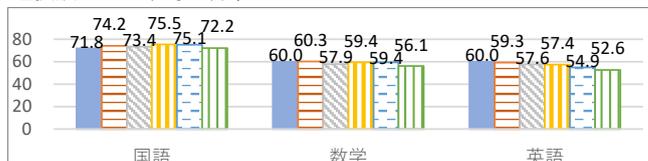
選択肢ごとの平均正答率



#### 中学校



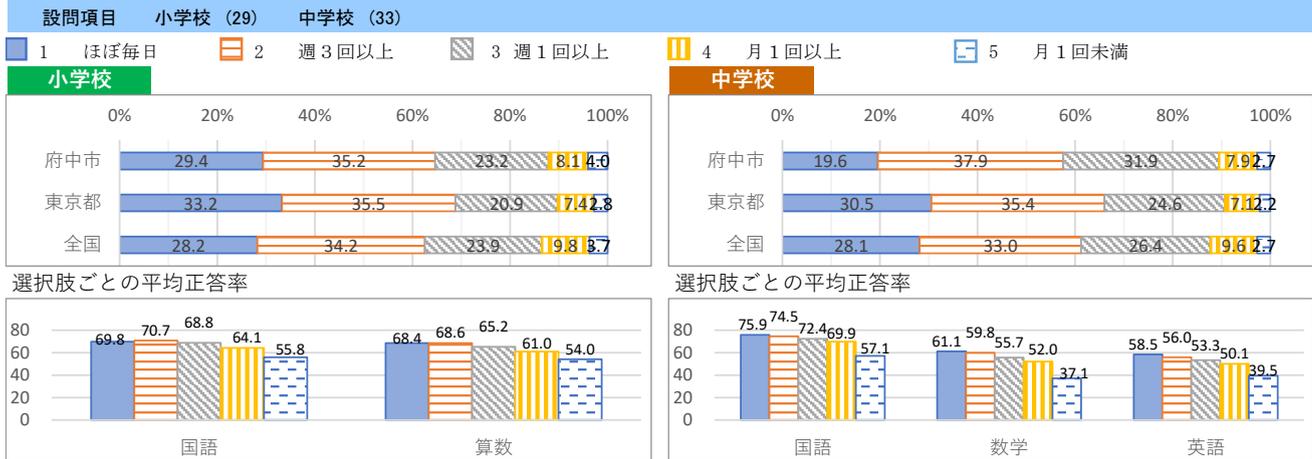
選択肢ごとの平均正答率



・家庭学習でタブレット等を利用して、英語の音声を読み取り英語を話す練習を行っていない、月1回未満と回答した児童・生徒の割合は、小学校では55.8%、中学校では、62.3%で、ともに全国より少ない状況となっている。家庭で英語を読み取り英語を話す練習をする際に、タブレット等を効果的に活用する家庭学習の工夫の周知を図っていく必要がある。

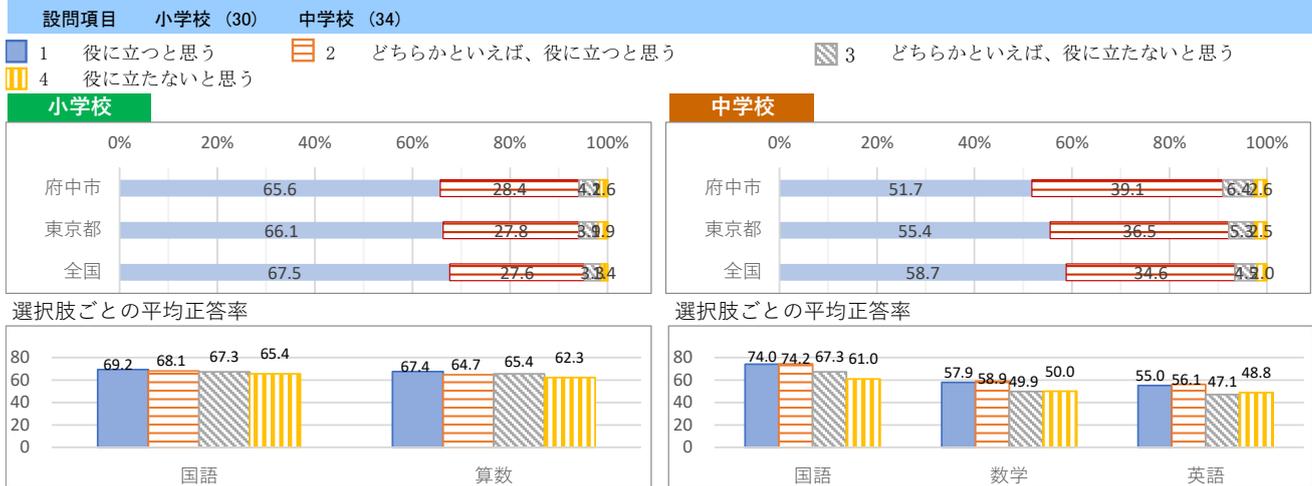
## 2 児童・生徒質問紙から (5)ICTを活用した学習

5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



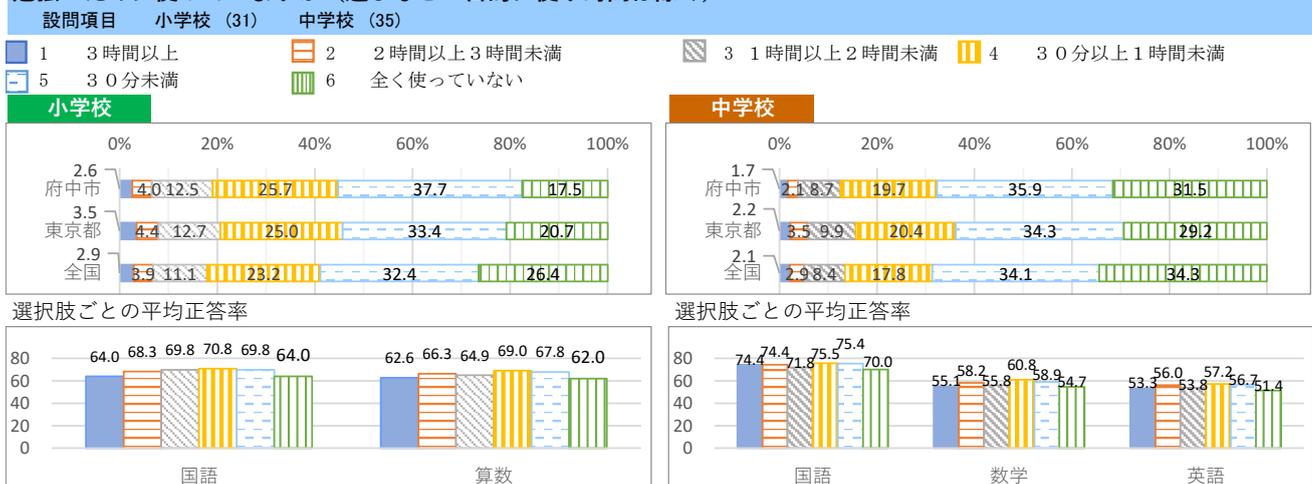
・授業でタブレット端末などのICT機器をどの程度使用しているかという質問について、週3回以上と回答した児童・生徒の割合が、都より低く、全国と同様の傾向である。(4月18日時点)。引き続き、タブレット端末の効果的な活用を工夫していく必要がある。

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますかという質問について、役に立つ、どちらかといえば役に立つと回答した児童・生徒の割合は、小学校・中学校ともに90%を超えている。引き続きタブレット端末の効果的な活用を工夫していく必要がある。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



・学校の授業以外でタブレット端末などのICT機器を1日当たりどの程度勉強のために使用しているかという質問について、全く使っていないと回答した割合が小学校では17.5%、中学校では31.5%である。授業と関連付けて家庭でタブレット端末を活用するなどの指導の工夫が必要である。